

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 相模原市立陽光台保育園

発効：平成22年3月26日（平成25年3月25日まで有効）

社団法人神奈川県社会福祉士会

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	カミハラシツ ヨコダ イクエン
事業所名 (正式名称を記載)	相模原市立陽光台保育園
事業所住所 最寄駅	〒229-0026 相模原市陽光台 3 - 1 9 - 1 JR 横浜線 相模原駅下車バス 20分 または淵野辺駅バス 10分
事業所電話番号	042 - 756 - 5300
事業所 FAX 番号	042 - 756 - 5301
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 川原 由紀子
法人名及び 法人代表者名	法人名 相模原市 法人代表者氏名 相模原市長 加山 俊夫
URL	
e-mail	youkoudai-ho@city.sagamihara.kanagawa.jp
問合せ対応時間	8:30 ~ 17:00

事業所の概要 1

開設年月日	昭和52年4月1日
定員数	120名
都市計画法上の用途地域	第1種低層住居専用地域
建物構造	鉄筋コンクリート造り 平屋建て
面積	敷地面積 (1,653) m ² 延床面積 (715) m ²

事業所の概要 2 (職員の概要)

総職員数	49名 (平成22年2月1日現在)
うち、次の職種に該当する職員数	園長 (常勤: 1名) 保育士 (常勤: 16名、臨時・非常勤: 24名) 調理員 (常勤: 2名、非常勤: 4名) その他 (庁務作業員 2名)

事業所の概要 3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後8週目 ~ 小学校就学未満	
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	無	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

意欲と思いやりのある子ども

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

優れている点・独自に取り組んでいる点：

職員会議や乳幼児の話し合い、オープン保育の話し合いの中で、一人ひとりの子どもの状況を報告し、保育士が共通理解と共感性をもって保育している。子どもたちが安心して過ごせるように個々に合わせた関わりをしている。

乳児クラスの「うきうきデー」や幼児クラスのオープン保育を行う中で、異年齢のふれあいを大切にしている。異年齢交流では、子どもたちの自主性を大切にしている。子どもたちは遊びの対象、時間等を自由に選択し、年齢の異なる子どもと交流することで優しさと思いやりの気持ちを育てている。幼児クラスのランチルームでは、食事時間に幅をもたせ、子どもたちが自分のペースで食事ができるよう工夫している。

保育室内には、絵本コーナーやブロックコーナー、パズルコーナー、制作コーナー、おままごとコーナーなど様々なコーナーを設置し、興味のある遊びを自分で選べるようにしている。コーナーを柵で囲うなどレイアウトを工夫し、集中して楽しめるようにしている。

プランターや畑でトマトやピーマン、ナス、大根等の野菜や稲を栽培している。収穫した野菜は「クッキング」等で巨大ピザの食材として使用され、子どもたちの興味を引いている。大きな人形にその日の食材を貼って身体の働きと関連付け、食事の大切さを教えている。

園外保育や散歩に出掛けて、自然の中で遊ぶことで小動物や草花等、身近な自然に触れる機会を作っている。近くの公園は自然が豊かな公園で、子どもたちは探索したり落ち葉の斜面を滑ったり、魚や亀を見て楽しんだり、草花を探したりしている。

隣接する障害児施設(肢体不自由児及び知的障害児施設)とは、30年、定期的に交流している。日常的に障害のある子どもとふれあうことで、個の違いに気付き、優しさと思いやりの心を育てている。デイセンターでの高齢者とのふれあいも定期的に行っている。

箸の使い方や歯磨き、身の回りのことなど、基本的な生活習慣を身に付けることができるよう保育している。食育ボードや保護者への連絡で状況を伝え、家庭でも子どもと保護者がそのことを話題にできるよう配慮している。

地域担当職員を中心に、全職員で地域の子育て支援を行っている。年間計画を作成し、交流保育や保育園行事への参加を呼びかけている。コミュニティ保育グループの相談・支援を行い、近隣の保育園と合同で育児講座を開催している。

評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	<p>園児や保護者に対する適切な言葉遣いや態度については、「陽光台保育園保育マニュアル」に定め、職員会議での園長からの説明や、接遇に関する外部研修の報告等を行うことで、共通認識をもって保育に取り組んでいる。外国籍園児や保護者には、配布物にルビをふったりすることで、個別の対応を日頃から心掛けている。</p> <p>相模原市個人情報保護条例が制定されており、職員会議等での周知や園内に個人情報に関するパンフレットを掲示し、職員の意識の徹底をはかっている。保護者には入園説明会等で説明している。個人情報を含む文書類は書庫に施錠して保管し、園内にて閲覧する場合は「持ち出し表」にサインをして取り扱っている。</p> <p>実習生やボランティア、見学者の受入れにあたっては、受入れマニュアルを整備し、プライバシーの保護について説明するなどして、徹底をはかっている。</p>
---	--------	--

2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	家庭との連絡・情報交換は、「陽光台保育園保育マニュアル」で手段・方法を定め、連絡帳や「おおきな一れカード」、園だより、クラスだよりのほか、送迎時に保護者が確認できるように、その日の様子や連絡事項をお知らせボードや速報に掲載し、一日の保育状況を知らせるなど、連絡を密にしている。 クラス懇談会を年2回実施し、保護者の意見・意向を把握している。個人面談は入園時及び必要に応じて随時、行っている。保育ウィーク、公開保育は保護者に保育園での様子を見てもらう機会としている。 運動会や発表会等の保護者参加の行事の後には、アンケートを実施している。また、保護者が意見や要望等を出しやすいように「メッセージボックス」を設置し、日頃より保護者の希望や意向の把握に努めている。
3	サービスマネジメントシステムの確立	苦情への対応はマニュアルや様式を定め、苦情受付担当者及び苦情解決責任者、第三者委員の設置を園内に掲示し、保護者に知らせている。 消毒薬や洗剤等の危険物は、園児の手の届かない場所に保管し、定期的に確認を行い、安全管理に努めている。 園児が触れるおもちゃ、タオル、布団、砂場等の物品の除菌・消毒、遊具の安全管理については、「園児健康管理マニュアル」、「安全チェックリスト」に管理方法等を定め、点検実行記録をつけて、衛生面・安全面の管理に努めている。 インフルエンザ等の感染症の情報は随時、掲示や配布物で保護者へ情報を提供している。 防火・防災・防犯対策については、「陽光台保育園消防計画」に基づき、役割分担を決めて訓練を実施している。実施後は、職員会議等で反省と見直しを行っている。
4	地域との交流・連携	地域担当職員を中心に、全職員で地域の子育て支援を行っている。年間計画を作成し、交流保育(なかよし保育園)や保育園行事への参加を呼びかけている。年間を通して園庭を開放し、絵本や紙芝居等の貸し出しも行っている。 コミュニティ保育グループの相談・支援を行い、近隣の保育園と合同で「みんなのひろば」等の育児講座を開催している。 地域の様々な人々とのふれあいや世代間交流の機会として、実習生や中・高校生の体験学習の受入れを行い、隣接する障害児施設やデイセンターの高齢者と定期的に交流している。
5	運営上の透明性の確保と継続性	各行事の反省をして、次年度につなげている。保護者参加の大きな行事はアンケートを実施し、保護者の意見・感想等も参考にしている。年度末には全職員で保育内容について見直し・検討を行い、次年度に反映している。自己評価の結果として、マニュアルの見直しや読み合わせを行うこと、行事の発表の場所を変更するなどの改善を行った。 保育園の運営や事業内容について、地域からの理解が得られるよう、玄関や門扉の掲示板に「園の紹介」を掲示し、園パンフレットを配布している。 保護者に保育園での園児の様子を見てもらう機会として、保育ウィークや公開保育を開催していることを、年間行事予定表等で情報提供している。
6	職員の資質向上促進	保育理念や方針については、入園のしおりや「陽光台保育園保育マニュアル」に明示し、園内にも掲示している。内容は職員会議で周知して、基本姿勢の統一をはかっている。 相模原市保育課による「保育所職員研修計画」に基づき、内外研修を実施・受講している。園内研修は、自主研修係が年間計画を立て、外部から講師を招いて実施するなど、自己啓発に努めている。外部研修の報告書は閲覧するとともに、いつでも内容が確認できるようにしている。

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 (調査確認事項全 80 事項) を通してのサービスの達成状況	100%
---	------

大項目 1 の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>職員会議・乳幼児話し合い・オープンの話し合いのなかで、一人ひとりの子どもの状況、配慮について確認し話し合い、共通理解と共感性をもって対応している。</p> <p>子どもの生理的欲求を満ちし、安心して過ごせるように個々に合わせた関わりをしている。</p> <p>乳児クラスのうきうきデーや幼児クラスのオープン保育を行う中で、異年齢児との触れあいを大切に、優しさと思いやりが育まれていくようにしている。</p>	<p>保育士の共通理解については、職員会議や乳幼児話し合いの中で、各クラス毎に子どもの状況を報告し、共通理解の上で保育するようにしていることを、職員会議録や乳児会議録などで確認した。</p> <p>子どもが安心して過ごせるように、不安そうな様子をとらえて保育士の膝に座らせるなど、個々に合わせた関わりをしていることを、保育日誌にて確認した。</p> <p>オープン保育では、異年齢児と一緒に遊ぶ中で、良い刺激が受けられるように関わっていることを、オープン保育の様子や保育日誌、「うきうきデー」にて確認した。</p>
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを育てるためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>子ども同士の関わりの中で、友だちの行動意図や思いを知らせ、受容しながら関わり方を伝えている。</p> <p>異年齢保育の中で、お互いを認め合うことや自分や相手を大切にすることを育てている。</p> <p>陽光園との交流や、統合保育の中で個の違いを認め合うことができるように援助している。</p>	<p>保育士の関わり方として、「とった、とられた」などトラブルが生じた時に、お互いの気持ちを伝え、相手の気持ちが分かることを大切にしていることを、保育日誌にて確認した。</p> <p>オープン保育では、2歳児のお片付けを5歳児が手伝いに来た時に、「ありがとう」の言葉が出るようになった様子を、保育日誌などにて確認した。</p> <p>個の違いを認め合う保育として、陽光園との関わりや、聴力に問題のある園児もあり、絵本を読むなどする中で、個の違いに気づけるように促し、お互いが受け止め合えるような関わり方をしていることを、保育の様子や保育日誌にて確認した。</p>
<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることを楽しむことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>年齢に応じた当番活動や簡単なお手伝いを通して、感謝されたり認められたりすることで、人の役にたつ喜びを実感できるように援助している。</p> <p>散歩や行事を通して地域の人達に接する機会を作っている。</p> <p>なかよし交流やデイセンターの交流の中で、一緒に活動したり介助を手伝うことで、役立つ喜びや人とのふれあいが楽しめるような活動を重ねている。</p>	<p>手伝いや当番活動として、4歳児がみんなで、3歳児の寝かしつけの手伝いをしていること、当番活動は、異年齢児と一緒にいることを、午睡の様子や当番メンバー表、保育日誌で確認した。</p> <p>地域の人達との交流では、散歩の途中で地域の親子と触れ合ったり、5歳児が行事で来ていた地域の子どもたちに声かけなどを行っていることを、保育日誌にて確認した。</p> <p>デイセンターとの交流で、子どもたちが自然とお年寄りの手を取り、「一本橋こちょこちょ」など楽しんで交流していることを、保育日誌などで確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>子どもの気持ちを察し、受け止めていながら言葉でのやり取りを楽しめるように関わっている。 言葉遊びや伝承遊びを積極的に取り入れ、繰り返しの言葉のやり取りを楽しんだり、言葉の面白さを味わえるようにしている。 絵本がより身近になるように「ひだまり文庫」で園児や地域へ絵本や紙芝居の紹介・貸し出しを行っている。また、年齢や発達に応じた絵本、視聴覚教材を生活や遊びの中で取り入れている。</p>	<p>言葉の遣り取りについては、保育士が子どもの気持ちを言葉に表して確認し、受け止めるなどしていることを、保育日誌にて確認した。 言葉遊びなどについては、年長児にリードされながら、3歳児が「お寺の和尚さん」など歌いながら言葉を楽しんでいることを、保育日誌にて確認した。 視聴覚教材については、「ひだまり文庫」がよく利用され、「今月の絵本」という掲示で、絵本の紹介をしていること、ペープサートなどの視聴覚教材が準備されていることを、保育日誌や、ひだまり文庫の様子などで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>子どもの気持ちを理解しお互いの思いを受け止め、言葉を添えながら気持ちを通じるようにしている。 紙芝居・絵本・パネルシアターなどで様々な言葉の表現に触れ、イメージすることができるようになっている。 クラスに絵本コーナーを設置すると共に親子で楽しめるよう、絵本・紙芝居の貸し出しを行っている。</p>	<p>保育士の関わり方として、「 が した」と子どもが言って来た時に、「じゃあ、～としてみたら」と、自分の言葉で、一所懸命伝えられるように促していることを、保育日誌にて確認した。 興味のある絵本は、子どもの希望もあり繰り返し読んでいて、様々な絵本に触れる機会を大切にしていること、パネルシアターなどが準備されていることを、保育日誌などにて確認した。 絵本コーナーでは、親子で、どれにしようかと相談しながら、本を借りる場合もあることを、保育日誌にて確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>様々なコーナーの中で自発性を大切にしながら、子どもたちが自分の興味・関心のある遊びを十分に楽しめるようにしている。 定期的にリトミックを取り入れ、表現の楽しさや面白さが味わえるようにしている。 生活や遊びの中で歌を歌う時間を設け、季節の歌や伝承遊びを楽しめるようにしている。</p>	<p>絵本コーナー、ブロックコーナー、パズルコーナー、製作コーナー、おままごとコーナーなど様々なコーナーを設置し、興味のある遊びを自分で選べるようにしていることを、保育室のコーナーの様子や保育日誌にて確認した。 表現の楽しさへの取り組みでは、リトミックの音楽が流れると、5歳児は保育士が関わらなくても自分たちだけで行っていることを、保育日誌やリトミック年間計画、写真にて確認した。 季節の歌や伝承遊びとして、「お寺の和尚さん」や「なべなべ底抜け」、「雨だれポットン」などを歌っていることを、保育日誌にて確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>運動会・発表会等の行事を通して友達と一緒に表現する楽しさを体験できるようにしている。 様々な素材に触れ、イメージを膨らませながら制作活動ができるようにしている。 様々なコーナーを設置し、自発的に遊びじっくり遊び込めるようにしている。</p>	<p>運動会では、普段とは違って真剣な表情を見せる子どもも多いこと、頑張った姿をほめて認めることを大切にしていることを、保育日誌などで確認した。 製作活動として、牛乳パックや色水、片栗粉粘土やどろんこ、散歩で拾ってきた木切れなど、様々な素材を使い遊びに取り入れていることを、「うきうきデー」や保育日誌にて確認した。 コーナーの設置では、コーナーにそれぞれ職員がつき、パズルやブロックなど興味が持てるように声掛けしていること、コーナー毎を柵で囲うなどレイアウトを工夫して、集中して楽しめるようにしていることを、保育室のコーナーの様子や保育日誌にて確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>園庭遊びや散歩等で身近な自然に興味を持ち、探索意欲が満足できるようにしている。 体操やリズム遊び、ふれあい遊びなどを保育に取り入れている。 絵本や紙芝居など、様々な視聴覚教材を楽しむ中で豊かなイメージが育めるようにしている。</p>	<p>道保川公園(どうほがわこうえん)は自然が豊かな公園で、探索したり落ち葉の斜面を滑ったり、魚や亀を見て楽しんだり、草花を探したりしていること、トトロの森でも、虫探しや山登りなど楽しんでいることを、保育日誌や「おさんぼマップ」にて確認した。 体操やリズム遊び、ふれあい遊びとして、3歳児保育室に体操や踊りのコーナーを作り、「よさこいソーラン」やフラダンスなどの曲をかけて身体を動かしていることを、保育日誌にて確認した。 16ミリ上映会を行い、映画会のチケットを渡し、子どもたちも「本当の映画館みたい」と喜んでいた様子を、保育日誌にて確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>乳児クラスは発育・発達に応じて探索活動が十分にできるように、安全面に配慮しながら、色々なものに関心が持てるようにしている。 園外保育や散歩に出掛けて自然の中で自然を感じたり遊ぶことで、小動物や草花など身近な自然に触れる機会を持っている。 季節の野菜を育てて食べたり、植物の観察画を描くなど生活の中で自然を身近に感じたり、興味・関心が広がるようにしている。</p>	<p>乳児クラスでは、ハイハイが出来るようになると、とても活動的になるため、安全に活動できるような環境をいつも考えていることを、保育室の様子や保育日誌にて確認した。 園外活動では、公園ではアスレチックなどでは遊ばずに、芝生でシロツメグサなどを探したり、それでプレスレットを作って遊んだりしていること、また、季節により、鈴虫やカブト虫を飼育していることを、保育日誌や写真にて確認した。 野菜や植物の栽培では、プランターでナスやピーマンも作っているが、畑では今は大根を栽培していること、観察画を描いたり、野菜を収穫して給食やクッキングに使用したりしていることを、畑の様子や保育日誌にて確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>友だちと一緒に食べることで楽しさを感じたり、お互い刺激しあって意欲的に食事ができるようにしている。 自分たちが育てた野菜を給食に取り入れたりクッキングを通し、食に関心が持てるようにしている。 子どもたちがトイレを気持ちよく使えるように環境を整えたり、排泄に関する絵本などを用い安心してできるようにしている。また、一人一人に合わせてトイレに誘い、子どもたちの排泄意欲を高めている。</p>	<p>食への取り組みでは、5歳児が自分で食べられる分だけよそって、お代わりをしている様子を見て、4歳児や3歳児も自分で出来る子はやるようになったりしていることを、ランチルームの様子や保育日誌、「パン屋さんがオープンしました！」にて確認した。 クッキングでは、5歳児は午睡を早く切り上げて、育てたミニトマトを使って巨大ピザをおやつに作っていたこと、トッピングを丁寧に置いている子どももいたことを、保育日誌などで確認した。 トイレへの取り組みでは、ドアに指を挟まないように工夫したり、ドアに「たべたらうんちをだして、すっきりしよう！」という絵を貼り、親近感を持ってトイレに行けるように工夫していることを、トイレの様子や保育日誌などで確認した。</p>
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>生活習慣の自立に向け、個々の発達に見合う支援方法を話し合い、職員が見通しをたてられるような声掛けや環境作りをし、達成感や意欲へとつながる関わりをしている。 発達に応じた絵本・紙芝居・お話し会などを通して、食べることの大切さや生活習慣を伝えている。 食育ボードや各おたより、懇談会などを通じて家庭と連携し基本的な生活習慣の大切さを理解できるようにしている。</p>	<p>保育士の関わり方として、2歳児に、箸遊びを通して、お箸に興味を持ってもらうようにし、給食でお箸を使うきっかけを作っていることを、保育日誌やクラスだよりにて確認した。 生活習慣への働きかけとして、午睡時間は、寝る時間ではなく身体を休める時間で、休息が大切であることを伝えていることを、保育日誌にて確認した。 家庭との連携として、おたよりで、身の回りのことを自分でやることなど、基本的な生活習慣を身につけることの大切さを伝えるようにしていること、朝なかなか登園できない園児のことや、歯磨き習慣について、家庭と連携し対応していることを、食育ボードや保育日誌にて確認した。</p>

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>うきうきデーやオープン保育の中で子どもの気持ちを大切に意欲を育て主体的に活動できるようにしている。 子どもの興味や身体の発達に合わせた運動遊びを提供し、意欲を持って取り組めるようにしている。 自然に親しむ中で季節の変化を感じながら散歩や戸外遊びを楽しめるようにしている。</p>	<p>保育士の関わり方として、頑張ってリトミックがすぐに出来るようになった気持ちをとらえ、沢山ほめたりしていることを、保育日誌や「うきうきデー速報」にて確認した。 運動遊びでは、鉄棒をやらない子どもに声をかけ、1回やったことをほめたら、「もう1回やってみる」と数回鉄棒をやったりしている様子を、保育日誌や「おおきな一れカード」などで確認した。 道保川公園(どうほがわこうえん)は、池や川があり、ザリガニがいる自然が豊かな公園で、園児の足で20分程の距離にあり、表通りを通らずに安全に行き来していることを、保育日誌や「しろ組遠足道保川公園に行ってきたよ!」で確認した。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>陽光園や他機関と連携をとり、発達に合わせた個人別配慮ができる統合保育をしている。 延長保育は家庭的な雰囲気の中で、子ども同士の関わりを大切にしている。 衛生面を十分配慮し、安全で静かな環境を確保しながら少人数での乳児保育を行っている。</p>	<p>陽光園が隣りにあることがこの園の特徴であり、そのことにより日常的に障がい児とふれあう機会があることを、保育日誌や巡回訪問相談票などで確認した。 延長保育では、少人数で保育士ともゆったりと関わられる時間を大切にしていることを、延長保育で使用しているホールや延長保育日誌で確認した。 衛生面の配慮では、汚れたオムツなど、保育室に入らずに家族が持ち帰ることができるように工夫されていることを、乳児保育室の様子や保育日誌で確認した。</p>
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>アレルギー児にはマニュアルに沿って面談を行い、保護者と連携をとりながら除去食を提供している。また誤食に注意し、万が一発生した場合も、マニュアルに沿って対応している。 離乳食は個々の発達にあわせて家庭と連絡を取り合い、給食室と話し合っ進めている。 体調不良児については、職員で周知・把握をし、遊びや生活面の配慮をしている。また、給食室と連携しながら個別に配慮した食事を提供している。</p>	<p>食物アレルギーのある子どもには、給食を提供する直前に、除去食であることを再確認し、分かりやすいようにトレイに食事をのせたままで給食を食べてもらっていることを、食事の様子や除去食申請書、保育日誌などで確認した。 離乳食への取り組みでは、保護者に食事の様子を見てもらい、給食の形状や園での食べ方や、保育士の関わる様子を確認してもらっていることを、保育日誌や離乳食会議、離乳食献立予定表などで確認した。 体調不良児への対応として、全園児の体調不良の有無を、各クラスのチェックノートで全保育士で確認していることを、保育日誌や各クラスの「チェックノート」で確認した。</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>食に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>野菜の栽培やクッキング等の体験を通して、食材に興味を持てるようにしている。お楽しみおやつ(おにぎり屋さん・パン屋さん・お楽しみおやつ等)で楽しんで食事が摂れる機会を設けている。保護者には試食を行い、食育ボードや食育だよりで園の取り組みを伝え、献立レシピの提供をしている。</p>	<p>野菜の栽培やクッキングでは、プランターへの水やりを通して、どの苗がトマトなのかピーマンなのか分ようになったこと、4歳児のお月見だんご作りで、白玉粉とお豆腐を混ぜたら、とても興味を持って見ていたことを、保育日誌や調理保育実施報告書などで確認した。 おたのしみおやつで出したデコレーションロールは、トッピングのクリームが多すぎたが、お代わりをするなど楽しんで食べていたことを、「おたのしみおやつ記録」や食育だよりなどで確認した。 食への取り組みとして、食育ボードを工夫していること、関心のある保護者が献立レシピを自由に持ち帰っていることを、食育ボードや食育だよりなどで確認した。</p>
<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>公開保育や誕生会などで保育の様子を見てもらったり、行事のときは写真の速報を掲示し様子を伝えている。園だより・クラスだよりを出したり、毎日の様子はクラスボードに記載している。個人的には連絡帳・おおきくなれカードを通して様子を伝え合っている。年に2回各クラスごとに懇談会を行い、家庭との連絡を密にしている。個人面談については、一人一人の子どもの状況に応じ、随時面談を行っている。</p>	<p>家庭とのコミュニケーションとして、行事については、写真の速報を掲示し、迎えに来た時などに保護者が様子を知ることができるようにしていることを、保育室の様子や保育日誌などで確認した。 日々の子どもの様子は、その日の様子をクラスボードに書き、迎えに来た保護者が様子を知ることができるようにしていること、0、1歳児は全員、連絡帳があること、2歳以上の園児は、保護者の希望によりお便りノートを作り活用していることを、クラスボードの様子や連絡帳などで確認した。 家庭との連携として、個人面談は、希望に応じて随時行っていることを、個人面談報告書にて確認した。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>地域担当を中心に全職員で、地域の子育て支援の対応を行っている。(園庭開放・なかよし保育園)保育園行事への参加・絵本の貸し出し子育て支援事業のパンフレット・毎月の地域向けのおたよりを園内外の掲示板・近隣のこどもセンター・公民館に掲示・配布をしている。保育園主催の支援事業・公民館、こどもセンターとの共催による育児講座を月2～3回ほど行い、親子遊びの提供・家庭での遊びの紹介・親同士の話の場の提供を行いながら、保護者の育児不安が解消できるようにしている。近隣の公立保育園(南上溝・上矢部・田名)と協力して共催企画『みんなのひろば』を年に4回行っている。コミュニティグループの相談園として活動の支援をしている。</p>	<p>地域子育て支援については、七夕会では、地域の子どもも参加しており、子どもたちも地域の方や子どもと一緒に遊んだり楽しんでいることを、保育日誌や写真などで確認した。 地域子育て支援として、「みんなのひろば」を、南上溝保育園、上矢部保育園、田名保育園と共同して企画し、年に4回行っていることを、園内の掲示物や地域子育て支援事業等報告書などで確認した。 コミュニティグループの支援では、コミュニティグループは、「どろんこの会」など数グループあること、保育園の利用が必要なく幼稚園前の子どもを持つ母親が、昼間自主的に活動していること、園としてコミュニティグループのサポートを担っていることを、保育日誌や園庭開放名簿、掲示板の写真などで確認した。</p>